

# クラインガルテンだより

■発行／松本市指定管理者 四賀むらづくり株式会社 〒399-7404 長野県松本市取出481-1 TEL.0263-64-4447 FAX.0263-88-4447 令和4年4月1日 ■印刷／株式会社

2022 春号 Vol.46



四賀地区  
とてあきの  
場所

## 雪を分け出る福寿草♪

なが~い冬の“雪綿帽子”から、やっとの思いで陽の目を見た福寿草。2月の降雪は福寿草群生地を一面覆い尽くしましたが、日増しに強くなつた太陽の温かさを受けて、ここに誕生です！



2022年の春がやっと訪れました。日本海側の地域では例年ない大雪に見舞われ、甲信地域には連日のように低温、乾燥注意報が報道されていました。日中でも気温5度以下の日が多く、寒さには閉口した今冬でしたが、暖かな春は着実にやってきました。

それにつけても、なかなか追い払えない新型コロナウイルスです。型を変え、次々とまん延する状況下では、一人ひとりが続けて感染防止に取り組む姿勢が必要ですね。収束が見通せない現時点では、依然イベント開催には慎重を期して臨みたいと思います。

行って  
みよう!

クラインガルテンを拠点に出かけるイベント案内

Event information

※イベントは、発表時より変更されている場合があります。事前にご確認ください。※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の状況により中止あるいは延期の可能性があります。あらかじめご承知おきのほど、よろしくお願いいたします。

## 田淵行男写真展 山の紋章 雪形

開催日 5月29日(日)まで(月曜、祝日の翌日休館)  
ところ 安曇野市 田淵行男記念館1階展示室  
お問い合わせ 田淵行男記念館 ☎0263-72-9964

全国の雪形の伝承を調査して出版した記録写真集「山の紋章 雪形」(学習研究社1981年)から、長野県内の雪形を中心に展示。入館料は高校生以上310円。

## マルク・シャガール展

開催日 6月12日(日)まで(展示替休館以外、年中無休)  
ところ 安曇野市 安曇野ジャンセン美術館  
お問い合わせ ジャンセン美術館 ☎0263-83-6584

1993年に開館したジャン・ジャンセン美術館。2023年の開館30周年を記念し、第1弾は「マルク・シャガールのオデッセイア#1」展を開催。リトグラフ27点を展示。夏期はピカソ展、秋期はビュッフェ展を開催。入館料は大人850円、小中学生500円。

## たちどまって考えるお話 絵本原画展

開催日 7月5日(火)まで開催中(木曜休館)  
ところ 安曇野市 絵本美術館 森のおうち  
お問い合わせ 森のおうち ☎0263-83-5670

「二番目の悪者」「せかいいちのいちご」(林木林/作、庄野ナホコ/絵 小さい書房)、「たまごのはなし」(しおたにまみこ/作 プロンズ新社)など、今だから考えたいメッセージのある絵本原画展。観覧料は大人800円、小・中学生500円、3才以上250円、3歳未満無料。

## 特別展 諏訪信仰と御柱

開催日 8月21日(日)まで(月曜、祝日の翌日休館)  
ところ 諏訪市 諏訪市博物館  
お問い合わせ 諏訪市博物館 ☎0266-52-7080

御柱祭や御射山祭の時に大祝(おおほうり)が着用した八角級笠や、武田信玄書状など「大祝諏訪(おおほうりすわ)家資料」や「御柱絵巻」など、「諏訪にみられる信仰」の資料を展示。7月まで毎月第4土曜と、8月20日(土)は13時30分から展示解説を開催。入館料は大人310円、小中学生150円。

## 御大典記念特別展 よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－

開催日 4月21日(木)～6月12日(日)  
月曜休館(5月2日は開館)  
ところ 松本市 松本市美術館  
お問い合わせ 松本市美術館 ☎0263-39-7400

松本市美術館開館20周年・リニューアルオープン記念展。奈良・東大寺の正倉院宝物を、伝統技術を継承する熟練の技と最新の調査・研究成果で忠実に再現した模造品の展示。観覧料は大人1500円、高校生1100円。

「山雪探し北アルプス遠望」

**信濃の国に春が来た!**

陽<sup>ひ</sup>を受けて道端に咲くオオイヌフグリやホトケノザに負けじと、菜の花も咲き始めました。今年は長期にわたり低温と寒風にさらされた草花の芽もゆっくりと出始めた感じです。凍てつく厳寒の季節を送り、春爛漫も、すぐ目の前です。やがて田畑に人の動きが活発に見られることでしょう。



「無病息災に願いを込めて」

コロナ禍も一緒に焚き上げ!

今年の「ものづくり」はコロナ禍のために共同製作をやめて各家庭でつくり、正月9日に「三九郎」を行いました。持ち寄った飾りは共同のときは違って家庭ごとに特徴あるもので、とてもバラエティ



に富んでいました。焚きあがった炎に、各家の無病息災とコロナ禍の一日も早い終息をみんなで願いました。

相次ぐイベント中止の中ですが、今年も寒竹の効用を承知したガルテナーの方を中心に、初挑戦者も加わって竹取りを行いました。順調な作業の後、不要枝葉の焚火で焼いた「ホクホク芋」を皆さんに持ち帰つてもらいました。

雪の中でとりわけ目立つのが赤い実！小鳥たちについばまれて残り少なくなつても存在感があります。もう今の時期には食いつくされた枝のみかも…。

1月29日(土)

**「大寒中の汗ばむ陽気の中で」寒竹取りに挑戦です！**

「雪南天」

**四季を通した至福の時間  
朝な夕なに代わる窓辺の景色**コロナ禍で発見した  
自然とのふれあい

ほほ笑みます。

都内から来て1年目で、ここ魅力にもうすっかり取りつかれたという久保さん。「私には田舎がありません。実家も自宅もずっと都内で庭もある生活に、とっても憧れていたんですよ」と

そして、「窓から青い空や四季の山々が見えるということ、ドアを開けてすぐ外に十があるということ。まして、車の音がほとんど聞こえないということ、それら全てが何という贅沢なことなんだろう、と感じながら過ごしているんですよ」といかにも嬉しそうに話します。日本の原風景が残る四賀の里からは、朝な夕なのアルプスの表情が変わるのも一つのお薦めですよ、といふと「とても実感します」と相づちを打つていました。

久保さんは以前から、欧州で古くからあるクラインガルテンのしきみをご存じのようでした。が、日本は地価が高いので経済的に余裕のある人でなければできないと思われていたようです。事実上ム



の声を掛けしてくれる方々が声掛けしてくれたのでもう一度、周囲の先輩ガルテナーの方々が声掛けして



坊主山クラインガルテン 215号

久保 春呼さん

りでも、いつも心のどこかであきらめ切れず、色々な手立てで探しているうちに四賀クラインガルテンを知ることになり、いつの日か長野に移住したいというのが夢だつたそう。で、昨年4月にそれが叶いました。「ならば一家でとも思いましたが、いろんな事情で私が代表利用をすることになったんですよ」と話してくれました。

この時期、感染者数の増加で来ているので長野県内でも他人に声をかけるのもためらいがちだつたようですが、周りの先輩ガルテナーの方々が声掛けして

嬉しかったそうです。また「『ド素人』で何もかも初心者なので土づくりなどの講習会に参加したかったけれど、コロナで中止でしたね。本とネットの情報で始めたので失敗の連続だったけど、皆さんが親切に教えてくださったのでとても嬉しかったし、助かりました」という久保さんです。

厳冬のラウベに来て霜柱の大きさと固さにびっくりするも、真っ白なキラキラとした美しい景色は「ずっと見ていて飽きない」といいます。この春に植える野菜の苗づくりに、始終夢を馳せた表情豊かな笑顔で話してくれました。

は近年降雪量が少なかつたのですが、ご覧のように久しぶりの大雪です。今年は寒波が厳しく2月のドカ雪といわれる重たい雪かきに地区の皆さんも大変な様子でした。幹線道路は通勤通学に支障のないように未明から除雪してありました。また、日中でも2~3度の連続で凍結防止帯の休まる時がありません。豪雪地帯の方々からすると贅沢な話でしょうか。



2月11日(金)  
「タタの大雪に見舞われた四賀の里」

相次ぐイベント中止の中ですが、今年も寒竹の効用を承知したガルテナーの方を中心に、初挑戦者も加わって竹取りを行いました。順調な作業の後、不要枝葉の焚火で焼いた「ホクホク芋」を皆さんに持ち帰つてもらいました。

**四賀  
ガルテン歳時記**

2月の雪で覆われた赤怒田福寿草群生地では、3月初旬にようやく一部で福寿草の花が見られるようになりました。

今年も福寿草まつりは中止になりましたが、福寿草の花愛好者が各地から訪れて静かに鑑賞しながら自然の恵みとの出会いに心打たれていました。

